



## 第59回光学薄膜研究会開催のご案内

拝啓

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また平素は本研究会活動に対し格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本研究会では2026年度の第2回光学薄膜研究会及び、2026年度第2回光学薄膜入門講座を機械振興会館にて下記の通り開催することを決定致しました。皆様のご参加をお待ちしております。

- ◆日時 : 2026年7月28日(火曜)
- ◆場所 : 機械振興会館 6F 66-67 (〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8)

### 1. 第6回光学薄膜入門講座 (9:30~12:00)

- ・ 申込方法 : 後述の参加申し込みフォームより入力ください  
(定員50名 先着順)
- ・ 会場 : 機械振興会館 **6F 6D-4**
- ・ 会場受付 : 9:00~9:30(事前申込がない場合は参加できません)
- ・ 参加費 : 2,000円/人

**※講演内容は昨年度第2回入門講座と同様の内容を含みます。  
昨年度は研究会会員様のみ限定させて頂きましたが、  
今年度からは非会員の方にもご参加いただけます。**

- ・ プログラム : 講座『光学薄膜の設計基礎』(9:30-12:00)  
株式会社導波技術研究所 渡邊 正 氏

光学薄膜設計の基礎的な内容を網羅的に説明します。講座の前半では、光学薄膜の基本原則(干渉を用いて色をコントロールする原理)から、基本的な用語(屈折率、光学膜厚、など)、各種の光学薄膜の膜構成まで解説します。講座の後半では、実際に光学薄膜を設計する場合の手順とソフトウェアでのシミュレーションについて、実演を交えて説明します。

※プログラム詳細を研究会HP (<https://otfse.org>) よりダウンロード頂けます。

### 2. 第59回光学薄膜研究会 研究会(13:30~17:00)

- ・ 申込方法 : 後述の参加申し込みフォームより入力ください  
(定員168名 先着順)
- ・ 会場 : 機械振興会館 **6F 66-67**
- ・ 会場受付 : 13:00~13:30(事前申込がない場合は参加できません)
- ・ 参加費 : 【会員】無料(但し、法人会員は3名/口まで)  
【非会員】8,000円/人

### 3. 懇親会 (17:10~19:10)

- ・ 申込方法：後述の参加申し込みフォームより入力ください
- ・ 会場受付：研究会参加の方は研究会会場受付にて行います。  
懇親会のみ参加の方は懇親会会場にてお願い致します。  
(事前申込がない場合は参加できません)
- ・ 参加費：7,000円/人
- ・ 場所：The Place of Tokyo  
<https://place-tokyo.com/>
- ・ 備考：基本的に締め切り後からキャンセル料が発生いたします



---

### 4. 【研究会プログラム】

#### 4.1 代表挨拶 (13:30-13:35)

東海大学 情報理工学部 情報科学科

室谷 裕志 氏

#### 4.2 『国際標準化活動 ISO/TC 172/SC 3/WG 3 赤外線光学材料』 (13:35-14:05)

株式会社ニコン 光学本部・ISO/TC 172 国内委員会 ISO/TC 172 国内委員長

大瀧 達朗 氏

国際標準化機構 ISO の専門委員会に TC 172 光学及びフォトニクスがある。その分科委員会 SC 3 は日本が幹事国として光学材料及び構成物の規格開発を担当している。作業グループ WG は実際の規格開発を行い、WG 3 赤外線光学材料では、日本がコンビナータシップを持ち活動している。国際標準化は製品の安全や貿易の促進に加え、研究開発やビジネス戦略としても重要である。国際標準規格開発の仕組みや WG 3 のこれまでの取り組みを紹介する。

#### 4.3 『赤外波長域における光学設計』（14:05-14:35）

株式会社ニコン 光学本部第一設計部 第五光学課 課長

新井 聡 氏

株式会社ニコン 光学本部第一設計部・ISO/TC 172/SC 3 ISO/TC 172/SC 3 国際議長

浪川 敏之 氏

可視光学系とは異なり、赤外領域では材料の吸収・放射特性や周囲温度の影響を強く受けるため、光学設計においてはこれらを踏まえた設計配慮が不可欠となる。本報告では、システム性能に大きく影響を与える赤外光学系特有の迷光について、その発生メカニズムについて報告し、赤外光学系設計における基本的な考慮事項を解説する。

#### 4.4 『赤外屈折率計測装置の紹介』（14:35-15:05）

分光計器株式会社 製造部システム課

一宮 孝博 氏

屈折率の測定原理自体は波長領域に依らず同じであるが、測定に使用する光源・光学素子・検出器などには使用可能な波長の制限があるため、従来の可視光線・近赤外線領域に対応する屈折率計測装置で赤外領域（ここでは  $2.5\mu\text{m}$ ～ $14\mu\text{m}$  程度）に対応することは困難である。本講演では、代表的な屈折率測定法を整理するとともに、赤外線領域特有の課題点を解説する。また、弊社が製作した最小偏角法を原理とする赤外屈折率計を紹介するとともに、より良好な測定結果を得るためのノウハウについて解説する。

===== 休憩（15:05-15:15） =====

#### 4.5 『赤外波長域の光学材料の紹介』（15:15-15:45）

応用光研工業株式会社 係長

土屋 知久 氏

赤外波長域における光学用の結晶材料であるフッ化カルシウム ( $\text{CaF}_2$ ) やフッ化バリウム ( $\text{BaF}_2$ ) 等のフッ化物、塩化ナトリウム ( $\text{NaCl}$ ) や臭化カリウム ( $\text{KBr}$ ) 等のアルカリ物、臭ヨウ化タリウム ( $\text{KRS-5}$ ) の光学的な特性や物性、取り扱いについてご紹介を行います。

#### 4.6 『炭酸ガスレーザー加工用ZnSe光学部品』（15:45-16:15）

住友電工ハードメタル株式会社 主幹

栗巢 賢一 氏

レーザー加工は、切断・穴あけ・溶接・アニール等多くの用途で適用が進んでおり、そのレーザー光を制御する光学部品は加工性能を左右するキーコンポーネントである。波長  $10\mu\text{m}$  帯の炭酸ガスレーザーによる加工では光学部品（レンズ）素材として透過性の高い ZnSe（ジंकセレン）が多く用いられる。当社は ZnSe 素材の合成から最終製品まで一貫した製造を行っている。今回、CVD 法による ZnSe 素材の合成と ZnSe を使用した  $f\theta$  レンズ、DOE（回折型光学部品）などの光学部品を紹介する。

#### 4.7 『赤外波長域における光学樹脂材料の開発』（16:15-16:45）

株式会社ニコン 先進技術開発本部 材料・要素技術研究所 第三研究課

仲野 敏樹 氏

AI技術の進展、赤外アプリケーションの用途拡大に伴い、光学硝材に求められる要求が多様化している。近年では高価なゲルマニウムに依存しない材料開発として、樹脂にも焦点が当てられるようになった。本講演では硫黄を用いた最新のアプローチと成果について紹介する。

#### 4.8 事務局からのご案内（16:45-16:55）

**\*注：プログラムは、諸般の事情により変更する場合がございます。**

5. 参加申込：以下のURLもしくはQR経由でお申し込み願います。

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=hBBmtBs56ECNVVOibkWZW48oMcoUe7JFfFnWFE64KGBU&MkNXU0JVQ1UyQjc3QUg1NEE5U1pUUINOOC4u&r2083048e9e004686a99d6f09c3c21975=%22%E5%90%8C%E6%84%8F%E3%81%99%E3%82%8B%E3%80%82%22>



申し込み締め切りは7月16日(木)です。

**※出来るだけ早いお申込にご協力戴けますと助かります。**

以下、ご注意とお願いです。

- ・申込は代表者がお申込の場合も参加者全員分の入力をお願いします。
- ・講演資料は、約1週間前にHP会員ページにアップします。
- ・参加費は当日の会場受付にて現金でのお支払いをお願いいたします。その際に紙の領収書をお渡しします。
- ・ご不明な点がございましたら事務局までご連絡願います。  
光学薄膜研究会 事務局 今枝（[otfcom@otfse.org](mailto:otfcom@otfse.org)）宛

以上

### 機械振興会館へのアクセス

- ・東京メトロ日比谷線神谷町駅下車 徒歩 8分
- ・都営地下鉄三田線御成門駅下車 徒歩 8分
- ・都営地下鉄大江戸線赤羽橋駅下車 徒歩 10分
- ・都営地下鉄浅草線・大江戸線大門駅下車 徒歩 10分
- ・JR浜松町駅下車 徒歩 15分

